

(ボ) の運営費の経費削減の取りくみ

一八六 ポリシェヴィキ中央部運営委員会へ

運営状況を系統的に監督するため、また系統的に経費を削減することができるようにするために、つぎのことをおこなう必要がある。

(一) 項目別の月例報告を作成すること。各項目は相互に比較できるものとし、またごく重要で変更をくわえられることのもっとも少ないものと、ごく臨時的で削減可能なものとを区別するものとする（新聞発行費と援護費とを区別し、発送部部屋代、印刷所の経費と用紙代、植字工の給与とを区別する等）。

(二) 相当の長期間（たとえば半年間）について、各科目ごとの平均経費を算出した合理的な総括報告を作成するようにつとめること。（食費は別個に。援護費も別個に。臨時費と小規模輸送費とをいっしょにはいけない。新聞の経費は、植字工——用紙——部屋——発送係給与——印刷所等の科目別に計算。）さらに各科目について、だいたいの、目分量の削減ではなく、正確な予測にもとづく削減を考慮する必要がある（これこれはこのように削減する。もっと安い用紙を購入し、あるいはもっと安い部屋を借りる、等々。「好便」、小規模輸送等の経費を削減する）。

P262には上記にもとづく一覧表があるが略。

		概 算				
		削減可能額				
		最小	最大	最小		
		単位千				
a) 在外組織および 新聞の経費	3776	2.5	—	3.0	2.5	
b) 同志援護費	444	0.3	—	0.5	0.2	(ラトヴィア人にのみ)
c) 民族諸組織へ	519	0.2	—	0.3	0.1	
d) 輸 送	1292	0.6	—	0.8	0.5	
e) Σ取得のための 経費および負債	6753	—	—	—	—	
f) 非合法党出版事業	817	0.3	—	0.5	—	
g) 協 議 会	566	0.6	—	0.6	0.5	
h) ロシアへ	4523	2.5	—	3.5	2.5	(中央委員会のみ、地方を除く)
i) 雑 費	250	0.1	—	0.2	—	
	18940	7.1	—	9.4	6.3	
	18 940					
	— 6 753					
	12 187					

第43巻『ポリシェヴィキ中央部運営委員会へ』P261～264

1909年、はやくとも10月にパリで執筆(同市内での文通) 手稿によって印刷